

# 露地スナップエンドウ年内どりおよび4～5月どり作型の畝の長さ1m当たりの枝数

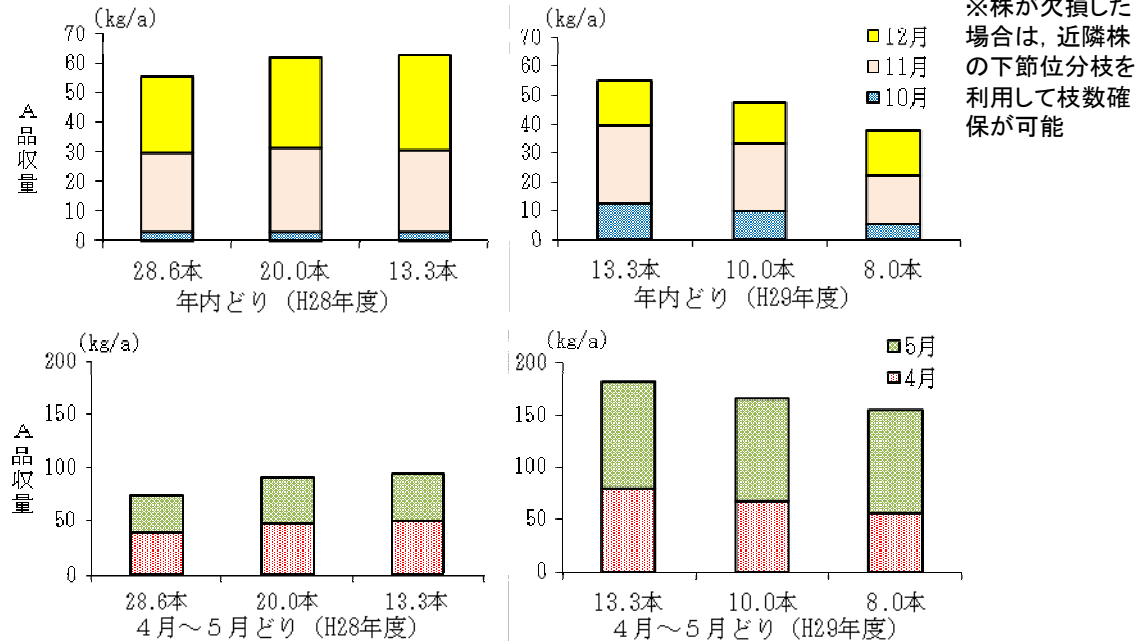
露地スナップエンドウ栽培では、15cm間隔2粒播きとし、畝1m当たりの枝数を13.3本とすることが適当

## 背景・目的

- ・良食味、簡単調理できることからスナップエンドウの消費は拡大中
- ・降霜地帯では、霜害の少ない年内どりと4～5月どり作型を組み合わせた体系での技術確立が必要
- ・マメ類では、受光体勢向上により収量が増加することから、最適枝数の解明が必要

## 成果の内容

畝の長さ1m当たりの枝数は13.3本が最適  
(播種穴間隔15cm × 1穴2粒まき)



導入メリット



- ・2作とも同じ枝数で、整枝作業が効率的
- ・指宿、熊毛地域の端境期に収穫可能

## 期待される効果

降霜地帯でもスナップエンドウを主体とした農業経営が可能となる

鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部野菜研究室

普及対象・範囲  
南さつま市、日置市および阿久根市、出水市の沿岸地域